

# このスポット・おすすめ!

地産地消を意識したパスタ&ピザが好評  
時間を忘れてのんびりと

## パスタカフェ のりーちえ

ランチセットは週替わり+黒板で幅広いジャンルの企画展も開催  
シブシブ中はワジラも泳ぐ波静かな海を眺めながら、パスタ&自家製ピザとおいしいコーヒーでリラクゼーション。カウンター6席、テラス5席のこぢんまりとした店内は常に穏やかなムードにあふれ、県道6号沿いの海近という観光地にも関わらず、地元のリピーターが半数以上を占めるほど。「読谷村という大好きな場所でもカフェを開き、人と人をつなぐ空間をつくらせたい」と話すのは、オーナーシェフの本木典子さん。座間味島のパーラーや小料理屋さんで長く働いた後、那覇市内のレストランでさらに腕を磨き、2015年にお店をオープンしました。

メインのパスタ、ピザにサラタやドリンクバーが付く人気のランチセットは、毎週メニューが入れ替わる他、「本日のおすすめ」を3、4種類提供。読谷村産、沖縄県産の旬の食材をふんだんに使い、肉や魚介、野菜本来の味を生かした見た目も鮮やかな料理が楽しめます。

今年でオープン5年目を迎える「読谷村に縁もゆかりもなかった私が何とかやってこられたのは、地元の方のおかげです。今後もしっかりお願ひします」と本木さん。お店はギャラリーとして、人と人の出会いを演出する役割も果たし、いろいろなジャンルの企画展を不定期で開催。4月27日には、現在龍の国ブータン展」を行っている写真家の東優子さんのトークショーが開かれます。

住所 / 読谷村瀬名波 821  
電話 / 090-1486-5786  
時間 / 11:30~17:00, 18:00~21:00  
休み / 木曜日  
駐車 / あり  
●おまなメニュー●  
●ランチ●  
・パスタランチ...1300円  
(サラダ・フォカッチャ・デザート付き)  
・ピザランチ...1300円  
(サラダ・フォカッチャ・デザート付き)  
●アラカルト●  
・パスタ.....900円~  
・ピザ.....900円~  
・ハーブチキンオープン焼き.....1200円



# Fresh WINDS

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌



## 読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『パスタカフェのりーちえ』で使える



お母さんがよくやるメニュー...  
MAGIC SHOW  
読者の前で1人で始めるショーってどんなショー? Q なぞなぞ

- 3月号当選者 前号の答え(コショウ)
- ★比嘉あけみさん(読谷村在住)
  - ★関塚伸介さん(読谷村在住)
  - ★比嘉朋子さん(那覇市在住)

## ワイワイ広場

### 読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1 ワインズ『広報誌係』

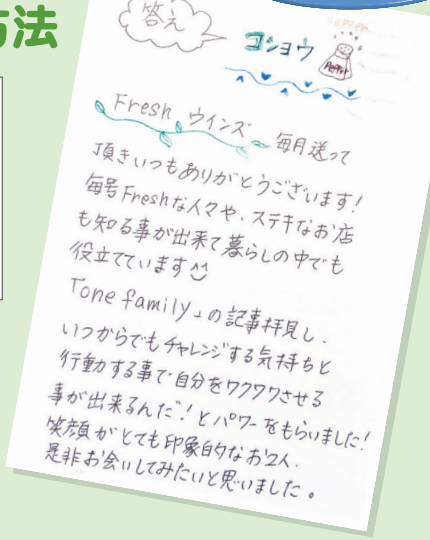
①住所 ②氏名  
③年齢 ④職業  
⑤電話番号

裏 ⑦ご意見 ⑧ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り 2020年4月20日消印有効  
「当選者は次号(Vol.188)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



↑那覇市 嘉手納町 名嘉病院 エネオス ワインズ★ ファミリーマート おきなわ 道の駅 読谷村 読谷高校 読谷小学校 読谷幼稚園 読谷保育園 読谷公民館 読谷図書館 読谷郵便局 読谷警察署 読谷消防署 読谷防衛局 読谷防衛隊 読谷防衛隊 読谷防衛隊 読谷防衛隊

(株)池原建設 企画事業部ウインズ  
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1  
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい!

☎0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

## 今月の歳時記

- 4月5日(日) 残波ビーチ海開きスペシャルサンクスデー  
会場・開催地 / 読谷村・残波ビーチ
- 4月10日(金) ニライビーチ 海開き神事  
会場・開催地 / 読谷村・ニライビーチ
- 4月11日(土) JAL PRESENTS 第17回 琉球海炎祭  
会場・開催地 / 宜野湾市海浜公園
- 4月27日(月) フォトグラファー東優子トークショー  
会場・開催地 / 読谷村・パスタカフェのりーちえ

新型コロナウイルスが収束せず、なかなか先が見通せない状況が続いています。密閉・密集・密接の「3密空間」を避け、こまめに手洗いを励行しつつ、適度なりフレッシュも忘れずに。4月に開催予定の各種イベントも変更・中止が相次いでいます。出かける前に最新の情報をご確認ください。



～スマイルビジョン～

# Smile Vision!

## 琉球王朝時代に開花した400年の歴史を持つ装飾品 「金細工」職人として、受け継がれてきた技法を守り続ける



「金細工またよし」7代目の又吉健次郎さんと、入門12年目の弟子の宮城奈津子さん。「伝統工芸だからデザイン性・創作性は必要なく、常に一定のものをつくり続ける根気の要る仕事ですが、購入いただいた方の喜ぶ顔を見るとやりがいが高まりますね」と宮城さん

琉球王朝時代にはさまざまに分野で王府御用達の職人が活躍し、文化の礎を築いてきました。今月ご紹介する金細工もその一つ。那覇市首里崎山町にある「金細工（くがにぜーく）またよし」では、7代目の又吉健次郎（88）さんが現役で工房を営み、50年以上に渡って受け継がれてきた技を現在に伝えています。

### 王府の抱え職人として 金・銀の加工品を製作

「金細工」の一般的なウチナー読みは「かんぜーく」。万国共通の用語である「きんざいく」とは若干意味合いが異なり、金属・金物全般を使った装飾品・日用品とその加工技術を指します。沖縄が琉球だった時代には、首里城の守礼門近くに多くの金細工の工房が集まり、王府の注文を受けて金・銀その他の貴金属の装飾品を製作していました。「金細工またよし」が誕生したのは16世紀初め。公式ホームページでは、その歴



史が次のように紹介されています。

「またよしの初代は首里王府の命により現在の中国に留学し、金細工の技術を修得しました。そのため「唐行き又吉・トーチまたよし」と呼ばれていた記録があります。代々又吉家は王府の抱え職人として筑登之親雲上（ちくどうんべーちん）の位をもらい守礼の門近くで勤めていました。王家、士族の注文控え帳は厚さ10cmほどの分厚いものだったと言われています。」

7代目の当主・又吉健次郎さんの話によると、「金（きん）を使うのは王族用の装飾品に限られ、他の上級士族に納めるものはほとんどが銀細工でした」とのこと。鉄や銅を用いた庶民向けの日用品などは、主に町の鍛冶屋が担っていました。

そんな由緒ある金細工も、明治時代に入ると社会構造の変化により徐々に衰退し、先の大戦では多くの貴重な道具や資料が焼失。戦後の動乱と相まって、伝統の道は完全に途絶えそうになりました。だが、人間国宝の陶芸家・濱田庄司氏らの力添えもあり、健次郎さんの父親で6代目の先代・誠陸（せいりく）さんが1960年代に復元を

遂げました。「親父は戦後しばらくの間、壺屋の一角に工房を構えて、真鍮や鉄で日用品などをつくり生計を立てていました。それがあるとき、壺屋を訪れた濱田先生の「耳」に留まり、金づちの音を聞いただけで素性と腕を見抜かれたんです。そして後日かけて下さった言葉が、金細工職人として再起を期すきっかけになりました。「誠陸さん、あなたはこのにいる人じゃないよ。もう一度琉球人に返ってくれ」。



10・10空襲の焼失を逃れ、金細工の伝統をつむいだ金床と金づち

### 技を伝えるということとは 道具を残すこと

又吉健次郎さんが金細工の道に飛び込んだのは40歳の頃。高齢になった誠陸さんの様子に「せっかくなので復元した技術を途絶えさせていいも

のか」と考えるようになり、跡継ぎになることを決意しました。

とはいえ特にこれといって指導を受けることなく、技の習得は見よう見まね。道具も誠陸さんから引き継ぎました。木の切り株に鋼鉄を差し込み、銀などの材料を叩くときの台にした金床（かなどこ）、サイズ・形状違いの金づち、天秤の原理で材料の重さを量る刃秤（もんめばかり）。これらはすべて戦前から使われてきたものであり、「10・10空襲に見舞われたとき、親父は真っ先にこの道具を担いで避難したそうです。だからこそ、琉球王朝時代の資料はほとんど焼失してしまっただけでなく、戦後も仕事を継続でき、後の金細工の再建にもつながりました」。

復元した道具もあります。銀などの金属の精錬・加工は高温で行う必要があり、ますが、そのための火をおこす送風器「ふいご」は、誠陸さん自ら設計図を描き、鹿児島県の業者に依頼して製作してもらいました。蓋の内側には誠陸さんが詠んだ琉球歌が記されており、「ふうち吹ち火ばな 顔に吹ちとばち 芸ぬ奥ふかさ 道やあぐで」。ふいごを使うと火の粉



「ふいご」の蓋の内部には誠陸さんが詠んだ琉球歌と製作記録を刻印

### ジーファー、房指輪、結び指輪 3種類の銀の「くがにむん」

「金細工またよし」では琉球王朝時代同様に、銀細工を中心に製作しています。数年前に工房名の読み方を「かんぜーく」から「くがにぜーく」に変えたのは、芥川賞作家の大城立裕さんから「作っているのは銀細工が主だけど、これらは紛れもなくくがにむん

ん」（黄金のように価値あるもの）だね」と称賛された一言がきっかけでした。

代表的な作品は、ジーファー、房指輪、結び指輪の3種類。琉髪を留めるためのかんざしであるジーファーは、形状がシンプルなのに一切の妥協が許されず、「作れば作るほど難しさを感じる」と健次郎さんに言わしめるほど。また健次郎さんが作る伝統的なジーファーと現在に広く普及しているものとは特に大きさに違いがあるという、「琉球舞踊に『金細工』という演目があるように、せめて古典芸能の舞台では昔ながらのジーファーを使つたほうがいいのではないかと考えているそうです」。

琉球王朝時代に婚礼指輪として使われていた房指輪と、2本の銀線を結んでつくられる結び指輪は、戦後の民藝運動に携わっていた濱田庄司氏らのアドバイスをもとに先代が復元したものの。一昨年に引退した安室奈美恵さんに県民栄誉賞が贈られた際には、この房指輪とジーファーと一緒に贈呈されました。

記念品・贈答品としての引き合いも多く、「くがにむんの銀細工」とはまさに的を



工房内のショーケースに並んだ房指輪（左）とジーファー（中）。はるか戦前に作られたような有志からの寄贈品も展示されています